

# 日本語版Pragmatic Rating Scale

	1	2	3	4	5
明瞭さ	語音の頻繁な歪み。発話は6%未満が明瞭	* 語音の中等度の歪み。発話は36-65%が明瞭		* 語音の正常または正常に近い明瞭さ。発話は95%超で明瞭	
流暢さ	コミュニケーションは不完全な表出、開始の失敗そして途切れた単語によって一貫して特徴づけられる。正常な流暢さは時間の6%未満	* コミュニケーションはわずかな不完全な表出、開始の失敗そして途切れた単語によって特徴づけられる。正常な流暢さは時間の36-65%		* 正常な流暢さは時間の95%超	
プロソディ	イントネーションとストレスの種類が重度に減少（時間の6%未満で適切）	* イントネーションとストレスの種類が中等度に減少または不適切（時間の36-65%で適切）		* イントネーションとストレスの種類が正常（時間の95%超で適切）	
話題の維持	会話は一貫して話題に無関連である（時間の6%未満で関連）	* 会話は中等度に話題に無関連である（時間の36-65%で関連）		* 会話は話題に関連している（時間の95%以上で関連）	
エラボレーション	話題のエラボレーションの欠如。コミュニケーションパートナーによって与えられた話題/反応に関連して、それに連続する表出を産生するのは（要求なしで）時間の6%未満	* 中等度に減少した話題のエラボレーション。コミュニケーションパートナーによって与えられた話題/反応に関連して、それに連続する表出を産生するのは（要求なしで）時間の36-65%		* 正常な話題のエラボレーション。コミュニケーションパートナーによって与えられた話題/反応に関連して、それに連続する表出を産生するのは（要求なしで）時間の95%超	
話題の管理	適切な会話のための話題選択の能力の重度な障害（話題は時間の6%未満で文脈に対し適切）	* 適切な会話のための話題選択の能力の中等度の障害（話題は時間の36-65%で文脈に対し適切）		* 話題の導入は時間の95%超で状況文脈に対し適切	
結束性	コミュニケーションは一貫して曖昧で、十分な情報または明確な指示対象の理解が欠けている（時間の95%超）	* コミュニケーションは中等度に曖昧で、時間の36-65%で十分な情報または明確な指示対象が欠けている		* コミュニケーションは十分な情報と明確な指示対象を伴い、一貫して明確。十分な情報または明確な指示対象の欠如は時間の6%未満	
話題の開始	重度に制限された新しい話題の開始。適切に新しい話題を開始することは時間の6%未満	* 制限された新しい話題の開始。適切に新しい話題を開始することは時間の36-65%		* 正常な新しい話題の開始。適切に新しい話題を開始することは時間の95%超	
冗長さ	コミュニケーションは過度の詳細さまたは情報の不必要な繰り返しによって一貫して特徴づけられる（適切な詳細さと繰り返しは時間の6%未満）	* コミュニケーションは中等度の過度の詳細さまたは情報の不必要な繰り返しによって一貫して特徴づけられる（適切な詳細さと繰り返しは時間の36-65%）		* コミュニケーションは適切な量の詳細さと情報の繰り返しをもつ（時間の95%超）	
話者交替（反応のすばやさ）	重度な反応潜時の増大（正常な反応潜時は時間の6%未満）	* 中等度の反応潜時の増大（正常な反応潜時は時間の36-65%）		* 正常な反応潜時（時間の95%超）	
話者交替（妨害）	コミュニケーションパートナーへの一貫したさえぎり（時間の95%超）	* コミュニケーションパートナーへの中等度のさえぎり（時間の36-65%）		* コミュニケーションパートナーへの最小限のさえぎり（時間の6%未満）	
フィードバック	コミュニケーションパートナーに応じての最小限の言語または非言語行動（適切なフィードバックは時間の6%未満）	* コミュニケーションパートナーに応じての制限された言語または非言語行動（適切なフィードバックは時間の36-65%）		* コミュニケーションパートナーに応じての正常な言語または非言語行動（適切なフィードバックは時間の95%超）	
修復	会話の破損への修復の欠如（適切な修復は時間の6%未満）	* 会話の破損への中等度に減少した修復（適切な修復は時間の36-65%）		* 会話の破損への正常な修復（適切な修復は時間の95%超）	
顔の表情	顔の表情の種類が重度になし、または不適切（時間の6%未満で適切）	* 顔の表情の種類が中等度に減少（時間の36-65%で適切）		* 顔の表情の種類が正常（時間の95%超で適切）	
アイコンタクト	アイコンタクトが重度に減少（アイコンタクトが時間の6%未満で適切）	* アイコンタクトが中等度に減少（アイコンタクトが時間の36-65%で適切）		* アイコンタクトの正常な加減（アイコンタクトが時間の95%超で適切）	
ジェスチャー	最小限のジェスチャーの使用またはコミュニケーションからそれた普通でない頻度のまたは奇妙なジェスチャー（ジェスチャーの正常な使用は時間の6%未満）	* 制限されたジェスチャーの使用またはコミュニケーションからそれた奇妙なジェスチャーの中等度の発現（ジェスチャーの正常な使用は時間の36-65%）		* 時間の95%超でコミュニケーションを支えるためのジェスチャーの正常な使用	

## 【用語の解説】

- ・エラボレーション：より詳しく言うこと。相手の発話に対して内容・情報をつけ加えて反応を返すこと
- ・結束性：語と語、句と句、文と文が互いに結びあつてまとまりのあるテキスト（全体としてまとまりのある言語表現）を作り出す
- ・妨害：同時に発話したり話に割り込み、発話を中断させる行為
- ・フィードバック：相手の発話に対するあいづち、うなずき、注視など
- ・修復：言い直しや会話を修正または訂正する行為（修復の必要な場面がない場合は5となる）

## 【評価上の注意】

「時間の〇%」という表現は、それが必要（適切）とされる時間の中での割合を示す。例えば「ジェスチャー」では、自らが聞き手となっている時間の多くや自分の名前を答えている時間ではジェスチャーは用いないことが一般的なので、そこは時間に含まれない。「アイコンタクト」では、時に視線を外すことはむしろ一般的なので、そこは時間に含まれない